



- 鬼
 

京都で鬼と言えば、都の貴族の娘をさらった酒吞(シュテン)童子と、羅生門で渡辺綱を襲い腕を切られた酒吞童子の手下の茨木童子です。

ところで、鬼がなぜ童子なのでしょう。

比叡山麓の八瀬の人は、今でも自分達は鬼の子孫だと名乗っており、明治維新までは他とは馴染まぬオカッパ頭で八瀬童子と呼ばれていました。

京都に都を誘致したのは、既に京都の生活適地に入植していた渡来人の秦氏です。遷都によりオカッパ頭の先住者は、さらに辺地に追いやられ、都でのいさかいや、貴族の娘と恋愛の末の略奪結婚騒ぎも起こします。

鬼とは為政者に従わない人のことで、オカッパ頭なので童子と呼ばれ、これを朝廷が武力で屈服させたのです。
- 鯖街道
 

「お祭は鯖鮓」とは京都の決まり相場です。

輸送手段の発達していない頃、海から遠い京都では魚は貴重品でした。若狭で揚った鯖をひと塩して約八十キロの道程を、夜を徹して京都に運ぶと、程良い塩加減になります。これを鯖鮓にするのが庶民の最高の贅沢だったのです。京都の名物に「いもぼう」や「にしん蕎麦」があります。この主材も若狭で北前船から陸揚げされた棒鱈と身欠ニシンです。これらの物資を運んだ道を「鯖街道」と呼んでいます。道は一つではなく、京都近辺だけをあげても、周山から高雄、雲ヶ畑から上賀茂、大原から八瀬、琵琶湖湖上經由大津から山科などを經由する多くのルートが存在しました。